

10.28 fri 13:30-15:30

公開講座「リストと社会の関わりについて」

2011年10月28日[金] 13:30-15:30 入場料 | 2,000円

フランツ・リストと19世紀社会（概要）

1 19世紀のサロン文化とリスト

19世紀はサロン文化の時代でした。パリだけでなく、ウィーンやベルリン、ペテルブルクなどの諸都市では、有力の貴族がサロンを構え、音楽家や作家などの芸術家を招いてサロン文化を築き上げました。リストを支えたのはこのサロンです。当時のサロン文化はどのようなものであったのでしょうか。またリストはサロン文化に対してどのように役割をになったのでしょうか。

2 リストの社会改革思想と音楽

リストは早くから社会の不平等に問題意識を抱きました。パリではサン・シモン派の集會に参加し、宗教による社会改革を唱えるラムネ神父に共鳴していました。こうした彼の思想は、音楽作品にも反映しています。「旅人のアルバム」の第1曲「リヨン」はその一例です。

3 ヴァイマル宮廷楽長就任と新ドイツ派

リスト自身はコスモポリタンでしたが、かつてゲーテが宰相をつとめたヴァイマルの宮廷楽長に彼が就任したことは、新しい意味を持つにいたります。この町に、ゲーテ、ヘルダー、シラーらの記念祭と銅像が建立され、リストはそれぞれに作品を作曲しました。そのことによってヴァイマルはドイツの国家主義の象徴的な都市へと変質していきます。

[講師]

西原 稔(桐朋学園大学音楽学部長)



西原 稔

Profile

山形県生まれ。東京藝術大学大学院博士課程満期修了。現在、桐朋学園大学音楽学部教授、音楽学部学部長。18,19世紀を主対象に音楽社会史や音楽思想史を専攻。「音楽家の社会史」、「聖なるイメージの音楽」（以上、音楽之友社）、「ピアノの誕生」（講談社）、「楽聖ベートーヴェンの誕生」（平凡社）、「クラシック 名曲を生んだ恋物語」（講談社）、「音楽史ほんとうの話」、「ブラームス」（音楽の友社）、「クラシックでわかる世界史」（アルテスパブリッシング）、「ピアノ大陸ヨーロッパ」（アルテスパブリッシング）などの著書のほかに、共著・共編で「ベートーヴェン事典」（東京書籍）、翻訳で「魔笛とウィーン」（平凡社）、監訳・共訳で「ルル」、「金色のソナタ」（以上、音楽の友社）「オペラ事典」、「ベートーヴェン事典」（以上、平凡社）などがある。